



HPV ワクチンと検診

子宮頸がんの原因は、ほぼ100%がHPVというウイルスの感染です。発がん性HPVは、ごくありふれたウイルスで、すべての女性の8割が一生に一度は感染すると言われています。子宮頸がんはHPVウイルスの感染を原因とすることから、ワクチンによってがん予防が可能となりました。

1 4月から子宮頸がん予防（HPV）ワクチン接種費用助成制度が始まります。

中学生女子を対象に子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）の費用を全額助成します。

1 対象者

皆野町に住民登録のある中学生女子

※平成24年度以降は、当該年度の中学1年生女子が対象となる予定です。

2 接種費用助成期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

3 接種回数

半年間に3回の接種が必要です。

〔初回接種から1か月後に2回目を接種
2回目接種から5か月後（1回目から6か月後）に3回目を接種〕

4 接種方法

指定医療機関で個別接種（指定医療機関は、対象者に個別に通知します。）

5 接種料金

指定医療機関で接種する場合、窓口払いはありません。

※子宮頸がん予防（HPV）ワクチンについて

HPVワクチンは、発がん性HPVの中でも特に子宮頸がんの原因として最も多い（約70%）HPV16型と18型の感染を防ぐワクチンです。6か月間に3回接種します。効果は20年以上続く（推計）と言われています。しかし、このワクチンはすでに今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがんを治療する効果はなく、あくまでも接種後のHPV感染を防ぐものです。

このワクチンは、性行為を始める前の女性が接種すると、将来の子宮頸がんを70%以上予防し、性行為開始後の女性でも60%程度予防できるとされています。思春期女子が最も効果的ですが、20代女性でもかなり有効です。

2 成人以降はがん検診で、完全に子宮頸がん予防が可能に！

ワクチン接種によって子宮頸がんのリスクは70%以上抑制できますが、子宮頸がんを完全に予防するためには、成人以降は定期的に子宮頸がん検診を受け、前がん病変（がんになる前の病変）のうちに見つけることが大切です。